

## 2014 年度前期卒業式式辞

本日、学士の学位を得た学部卒業生 13 名、修士の学位を得た大学院修士課程修了生 1 名、そして、博士の学位を得た大学院博士課程修了生 1 名の計 15 名の皆さんを、本年度前期卒業生、修了生として送り出すことができますことを大変嬉しく思います。皆さん本当におめでとうございます。列席の理事・副学長、学部長とともにご卒業を心からお祝いいたします。

さて、今回卒業される皆さんの多くは、2010 年（平成 22 年）4 月の入学生の方です。私は、2009 年 8 月 1 日に学長に就任しましたので、私が学長として迎える初めての入学生でした。

2010 年 4 月 5 日の入学式で、皆さんに私が、何をお話したか覚えているでしょうか。入学式前の 3 月 25 日付けの新聞報道で、本学関係者にとって衝撃的な記事が掲載されたこともあり、冒頭次のようなお話をしました。

「皆さんの中には、入学式直前、3 月 25 日の新聞報道で、「国立大学初のランク付け」「地方国立大学は苦戦」という記事において、本学が 86 大学中下から 2 番目の 85 番目に位置していることに驚き、また不安にかられ、この大学に入学して大丈夫だろうかと入学手続きを躊躇された方もあるかもしれません。この国立大学ランキングにつきましては、本日詳しい見解を公表しますが、これは 2004 年～2007 年度の 4 年間の評価であり、今日のものではありません。また評価の方法として必ずしも適切なものではないことは、ランクを報道した新聞自体もコメントしておりますし、政権交代後の文部科学省の見解でもあります。和歌山大学には、誇るべき教育・学生支援の業績があり、研究や地域への貢献の蓄積があります。この長い歴史とその間に蓄積した業績を今後へと繋ぎ、より良い大学へと発展させるべく日々努力していますので、安心して下さい。」

この新聞報道については、2010年以前入学の皆さんも記憶にあるでしょうか。

そして、入学式当日、「報道と評価に関して」以下のコメントを公表しました。

「歴史と伝統のある本学は、教育、研究、地域連携・社会貢献活動及び大学運営の各分野で、特色ある地方国立大学法人として、他大学には見られない多くの優位性・先進性を備えているものと自負しております。また、評価制度に関しましては「その評価自体の公正さにも疑問」という報道各紙のコメントにもありますように、地方国立大学には不利な評価方法である点についても改善が求められています。しかしながら、今回の評価結果はそれとして真摯に受け止め、今後は全学的英知を結集する中で本学の实力が高い評価として定着するよう努めてまいります。現在、本学においては、第1期中期目標・中期計画に係る評価報告書の作成作業を進めております。また、今年度から始まる第2期におきましては、第1期暫定評価の経験を十分に踏まえ、本学の教育、研究、地域連携・社会貢献活動及び大学運営のあらゆる業務にわたり、改革と持続的発展をめざしてまいります。和歌山大学は、地域から日本、世界に誇れる教育、研究、地域連携・社会貢献を使命とする大学運営の「地方国立大学モデル」を開発していく決意です。」と。

それから4年半が経ちましたが、皆さんは、「安心」して多くの学びを得ることができたでしょうか。

一方本学は、上記のコメントで決意を表明しましたように、「地域から日本、世界に誇れる教育、研究、地域連携・社会貢献を使命とする大学運営の『地方国立大学モデル』を開発」してきました。

この間の4年余の、全学の教職員、そして学生の皆さんの奮闘、加えて卒業生、同窓生、地域の方々のご支援の成果が、先だって公表されました2015年度文部科学省概算要求において示されたことを、皆さんにお伝えしたいと思います。

この予算は、大学改革に積極的な取り組みを行う大学を重点支援するための「国立

大学の機能強化」予算で、和歌山大学は、232 億円の運営費交付金の対象となる 30 大学の一つに組み込まれました。本学の構想は、観光学分野で世界トップクラスのサリー大学、クイーンズランド大学等との連携をいかした「国際観光学センター(仮称)」を設置し、世界一線級の外国人研究者を招へいして、我が国で初めての「国連世界観光機関による観光教育・訓練・研究機関としての認定」を取得することを通じて、アジアにおける観光研究ハブを形成するというものです。

日本社会が長期にわたる人口減社会を迎え、高等教育機関のあり方も変化を迫られている中で、今回この予算の配付対象に選ばれたことは、本学が世界の観光学研究教育の拠点となるというミッションが確定したということであり、和歌山大学存続への基盤を確立したものでもあります。

不安の中で入学された皆さんに、未来ある和歌山大学の姿をお伝えして、社会へと送り出せることは、学長として大変嬉しいことです。

和歌山大学は、「生涯、あなたの人生を応援します」とメッセージを発しています。和歌山大学が存続する限り、このメッセージは生き続けます。人生の岐路に直面した時、母校を思い起こし、リターンしてください。教職員は勿論のことですが、同窓会の諸先輩方も全国各地で皆さんの人生の応援団として待っていて下さいます。そのことを最後にお伝えし式辞といたします。

2014 年 9 月 26 日

和歌山大学長 山本 健慈